2018 年 10 月 12 日

2018 年度血小板委員会活動報告書

血小板委員会委員：石黒 精(委員長)，今泉益栄，内山 徹（新任），小林尚明，國島伸治
笹原洋二，東川正宗，宮川義隆（新任），森 麻希子 （五十音順）
オブザーバー：高橋幸博（前委員長）

報告事項：

① 先天性血小板減少症の中央診断と登録

國島委員が転任したことにより停止していた，当委員会が主催する先天性血小板減少症の診断体制を9月末から再開した。AMED の研究費を受けて，新しく国立成育医療研究センターを中心とした体制に変更した。また，レジストリも開始した。診断体制変更について広報するために，小児血液・がん学会で発表する。

② 小児難治性 ITP 診療ガイド

高橋前委員長を中心とした作業によって原稿が完成した。小児血液・がん学会雑誌に委員会報告として投稿する予定である。

今後は Minds に準拠して，CQ と網羅的文献検索に基づいた新規小児 ITP 診療ガイドラインの作成を開始する予定である。新規ガイドラインでは難治性に限定せず，first line も含めた CQ を設ける予定である。

③ ITP 治療の国際標準化と免疫グロブリン 1g/kg 投与

2018 年の日本血栓止血学会において中舘尚也 元委員が，使用実態の調査結果を報告した。小児 ITP 患者への免疫グロブリン治療に際して，多くの施設で 1g/kg 投与が選択されていた。調査結果について論文化を進めることにより，1g/kg 投与法を含めた添付文書改定を目指す。

文責
血小板委員会
委員長 石黒 精